

2020年度 1級面接試験合格 試験で何をすべきかが丸わかりできる1日講座

合格には、採点者が面接のどこを見ているかを知ることです

日程 会場	■東京 2020年9月13日(日) 9:30~16:30 会場:全労連会館(御茶の水駅)	■大阪 2020年8月2日(日) 9:30~16:30 会場:たかつガーデン(大阪上本町駅)
受講料	■ 会員:16,000円 ■ 一般:21,000円 ■ 2020年度キャリア塾:11,000円(税込) メルマガ会員の方は一般受講料でご受講ください。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 面接試験に「合格」するためには4つの評価区分の内容を理解し、採点者が実際に面談のどこをチェックしているかを知ることがスタートです。 第9回検定で合格した(面接試験の到達)受検者と合格できなかった(面接試験の未達または所点未)受検者との違いは何かを理解することで、第10回検定で合格を勝ち取るためにしなければならないことを明らかにします。 評価区分のうち、「基本的态度」や「関係構築力」について、何をどうすれば評価されるのかを読み解きます。 評価区分のうち、多くの受検者が苦手とする「問題把握力」と「具体的な展開力」では、問題把握と合意のプロセス、具体的なレッスンのやり方を試験官にどうアピールするかを示します。 面接試験は、ロールプレイと口頭試問で行われます。口頭試問の重要性を理解し、試験官から出される質問に、何を、どう回答すれば、得点アップに結びつけられるかを示します。 	

	受講することで、理解し身につく内容
評価区分について	4つの「評価区分」が試験実施機関によって、受験者は「これを熟読したうえで、試験に臨んでください」とされているのは、試験官がこの項目についてロールプレイと口頭試問を採点しているためと考えられます。 講座では、4つの評価区分の意味を正しく読み下して把握し、ロールプレイでの実践と口頭試問での回答にどのように反映させると効果的なのかをお伝えします。受講者は、本試験までにどのような対策をとるべきかが明確になります。
面談のアプローチに必要な基本的事項	1級の指導面談では、提示されるケース記録の扱い方・事例指導者(受験者)・事例相談者との間で生じる「面談の二重構造」、「指導」の意味の正しい理解、事例相談者の面談技法上の問題を把握するための「一般化」の技法など、2級とは異なる対応が求められます。 面接試験合格のためには、この違いを把握した上で、それぞれ適切な対応をすることが求められます。講座では、30分の面談ロールプレイを構造化し、それぞれの対応法をお伝えします。
過去問の3ケース分析	過去の本試験に出題されたケースを分析すると、毎回、事例相談者が抱える面談技法上の問題には、3つのパターンがあります。 指導面談のロールプレイでは、そのパターンを掴み、それを事例相談者に気づいてもらうためのアプローチを取ることで、合格が見えてきます。 講座では、過去問の傾向分析を踏まえた面談を実施し、事例指導者役・事例相談者役・観察者役(試験官役)を経験することで、何をどうするか評価されるのかを把握していただきます。